

No 32

31 Jul. 2011

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成23年7月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

パプアニューギニアから温かい贈り物 (東日本大震災義援金)

伊藤 明德 (PNG教育省付きJICA専門家)

東日本大震災が起こってから半年が経ちました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

PNGでは、東日本大震災直後から、被災者支援の活動が各地で起こりました。私が滞在する首都ポートモレスビーでも、日本人会とPNGの人々が協同で支援活動を行いました。

地震が起こった3月11日、被災の映像が地元のテレビ局でも直ぐに放送され、津波が町を襲っていく映像が、PNGの人々に恐怖を与えました。ラジオ、新聞でも被災の状況は大きく報道されました。PNGは火山帯に位置し、津波の被害も過去に経験しています。1998年にはアイタペという町が津波に襲われ、約2千人が死亡したこともあり、PNGの人々は津波に大変敏感です。

地震後、周りのPNGの人々から、日本を心配する声や、寄付に関する問い合わせが殺到しました。日本人会は緊急理事会を開き、Tシャツを販売して売り上げを義援金にすることを決定。

早速、1600枚のTシャツを作成し、大型スーパーの店頭、教育省、ソフトボール場で販売しました。PNGが日本を応援していることがひと目で分かるように、TシャツにはPNGの国旗と「がんばれ日本」のメッセージを入れました。販売には日本人の職場の同僚や友人が多く参加してくれ、皆でTシャツを広げ、「兄弟の日本を助けよう!」と大声で呼びかけました。寄付バケツも置き、寄付金も受け付けました。Tシャツが買えない人は、小銭をバケツに入れてくれました。



ポートモレスビー国立高等学校での義援金授与式典
教師と生徒が募金した義援金を日本大使館と日本人会に手渡しました。

右から ディビッド・ディオワイ校長、川田一徳 日本大使館参事官(当時)、
宮崎成行 ポートモレスビー日本人会会長(当時)

小さな子供も寄付してくれました。わずかなお小遣いなのに、無理しなくていいのに……、と涙が出そうになりました。また、Tシャツ販売に協力することを申し出た学校もありました。その学校の校長や教員が、過去に日本から来た青年海外協力隊員や専門家と一緒に活動したことを思い出し、販売を自ら申し出てくれたのです。他にも生徒、教師が皆で募金活動を行い、70万円も集めてくれた高校もありました。その他、企業や外国人コミュニティからも寄付金が寄せられました。その結果、5月下旬には合計475万円が集まり、この義援金は、6月2日に岩手県陸前高田市に送付されました。

今回の活動に参加した人に、被災者への支援活動の動機について尋ねてみました。すると、皆が口を揃えたように、「日本はいつもPNGを助けてくれる」「日本はPNGの



大型スーパー店頭での義援金活動

右から 宮原光川CA企画調査員、お嬢様の天さん、ハチ・ミロウ教育メディアセンター長、ベンジャミン・ウグブ教育メディアセンター職員



ジュビリー高等学校

右から キャンシー・ラセへ副校長、マーク・アー・チー先生、ベネディット・オベ校長



教育省ビル前でのTシャツ販売と募金活動

右から エサ・ゴドゥア メディアカリキュラム職員、ハチ・ミロウ教育メディアセンター長、ジェーン・バゲリオ カリキュラム部長

兄弟だ」「病院、学校、道路を作ってくれ、感謝している」「子供が、日本が作ってくれた学校に通っている」「恩返しをしなければ」「私たちの仲間を助けるのは当たり前」と話してくれました。またニュースでは、教育省事務次官が「日本はPNGをずっと支援してきた。今こそ日本に恩返しをしよう」と強くアピールしてくれました。

今回、約500万円という大金が集まりましたが、PNGの人々がこれほどにも協力してくれたのは、「困った人を助けるのは当たり前」という優しい心を彼らが持っているからだと痛感しました。また、それに加え、日本の政府開発援助(ODA)による支援や、これまで日本から派遣された青年海外協力隊員や専門家たちによる人と人との交流が、地道に積み重なっていたためだと思いました。そして、PNGの人々は遠い日本を身近に感じてくれていることを知り、心が熱くなりました。

私は、PNG国民の皆が支援してくれたこの活動を日本人の皆さんにもぜひ知ってもらいたいと思い、新聞社に紹介したところ、それが記事になりました。6月には、被災した仙台育英学園から「PNGの活動を知り、PNGの学校に机や椅子を感謝の気持ちとして寄贈したい」という話をいただきました。日・パ協会の協力を得て、7月16日に仙台育英学園からの贈り物がポートモレスビーに到着、4校の学校に配布されました。

日本での被災、PNGの人々の感謝と友情、恩返し。そして日本からの贈り物。義援金活動がPNGと日本の繋がりをより強くしたのではないのでしょうか。この度、この活動に参加でき、とても嬉しく思っております。活動ビデオは、Youtubeにアップしています。

<http://www.youtube.com/watch?v=mOtOz5H7YFQ>

仙台育英学園からの大きなプレゼント

角田 明日香 (当協会青年部 代表)

屋代 健一 (当協会青年部 事務局)

去る7月、仙台育英学園がポートモレスビー国立高等学校へ文房具と1000セットの机、椅子を寄付しました。今回、当協会青年部を代表して、私たち角田と屋代がパプアニューギニア(以下PNG)を訪問したのは、それを記念する式典のレポートのためです。残念ながら、結果として式典は延期になってしまいましたが、この度の訪問についてご報告させていただきます。

現地に着くと私たちはまず、PNG駐在日本大使公邸を表敬訪問し、橋廣治大使より広くお話をうかがいました。その内容は、昨今のPNG情勢や今後の協会青年部の活動についてなど、大変に参考になるものでした。また、私たちが青年部を組織した当初の意識を再確認し、今やるべき



左から、JICAの伊藤さん、佐藤領事、角田、橋大使、屋代、片岡2等書記官

ことに自信を持って取り組むきっかけとなりました。大使公邸訪問の後には、JICA専門家の伊藤さんのご案内により、文房具と机、椅子を運搬した企業やその補助を行って下さった政府機関、さらには教育省や国立教育メディアセンター、市場、PNG大学など様々な場所を訪れました。それぞれの訪問先で多くのPNGの方々との出会い、私たちは日本人

が失くしてしまったような何かを、PNGの人々の人柄を通して、改めて肌で感じました。それから、式典は延期でしたが、ポートモレスビー国立高等学校を訪れ、コンテナが届いていることを責任を持って見届けて参りました。震災を免れ、たくさんの思いを乗せたコンテナが、宮城県から海を越えて学校に届いたこの時は、感慨深い瞬間でありました。

3日間の滞在は、PNGを感じるにはあまりにも短すぎるものでした。しかし、私たちはそれぞれ、角田は3回目、屋代は2回目の訪問でしたが、懐かしいパプアの空気にも浸りながらも、少しずつではありますが確実に変化を遂げているPNGの風景をしっかり目に焼き付けてきました。

今回の訪問を通じ、私たちは自身の更なる学びを深めていきながらも、一方で、より多くの人々にPNGについて



ポートモレスビー国立高等学校の先生と生徒たち

知ってもらいたいと改めて強く感じました。そのため、具体的な目標として、来年度にスタディ・ツアーの実施、そしてグローバル・フェスタ2012への出展を計画しております。このような目標に向かい、私たちは今後ますます精力的な活動をしていきますので、ご支援よろしくお願い致します。最後に、この度のPNG訪問にご支援を下さった皆様にお礼を申し上げたいと思います。

鹿児島からこんにちは！

大迫 嘉久（当協会会員、NPO法人 鹿児島・パプアニューギニア協会代表理事）

私は今から約40数年前に、「パプアニューギニアで戦死した父の遺骨を収集したい」というある男性からの相談を受け、当時ではまだ珍しかったPNGへの渡航手続きをお手伝いいたしました。そして、このことがご縁で、今日までPNGとの交流を続けてまいりました。文通を主に、これまでに約700通以上の手紙をPNGの人々から受け取っており、この中には建国の父と言われるマイケル・ソマレ前首相からの手紙も含まれています。

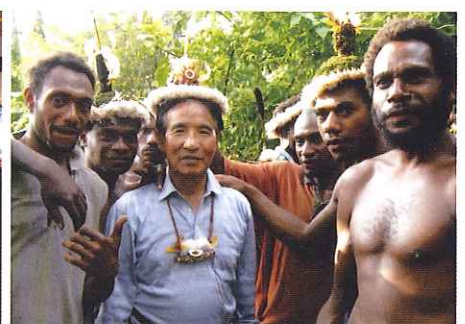
先の太平洋戦争のニューギニア戦線では、約13万人ともいわれる日本兵の方々が亡くなっており、このうち鹿児島県出身者は約8千人と推定されています。また、これらの遺骨は未だ収集もままならず、PNG国が日本兵の墓所になっているのが現状といえましょう。私たちには、亡くなられた日本兵の想いを無駄にしないためにも、これらの事実を子どもたちや孫たちに伝え残して行く使命があると考

えています。

地元の鹿児島大学には、南太平洋の島嶼国から優秀な留学生が毎年入学してまいります。現在は、これらの留学生に対してのボランティア活動や、地域の方々を対象にしたPNGの写真展や小さな講演会活動などを行っております。

5年前には、古くからの友人である賀部さん（日・パ協会個人会員）とニューギニア航空の島田支社長の力をお借りして、念願であったPNGの旅を実現いたしました。

これからの日・パ両国の将来には、無限の可能性が秘められています。私たち鹿児島・パプアニューギニア協会の活動が、少しでもその礎になればと考えております。現在、鹿児島大学に学び、ラバウルに帰国したバーナード・カヴァナムルさんの子どもたちのグループによる「子供シンシン」を鹿児島に招き、日本の子どもたちとの交流を実現しようと奮闘中です。



日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第25回

「みなさん、こんにちは」

山水海運株式会社です。

〒102-0023 東京都中央区
日本橋本町4-4-2 東山ビル5階

TEL03-3245-0311

FAX03-3246-2789



船創始者、山下亀三郎氏の基金「山水育英会」によって創設された山水中学校、山水高等女学校が前身であり、同じ山水の名前の歴史があります。

馴染みの少ない海運ブローカーかとは思いますが、当社の主たる業務は、不定期船バルカーにおいて、石炭、穀物の荷主と船会社との仲介、船会社同士の船舶の貸し借り、もしくは船舶そのものの売り買いの仲介です。運賃や値段のみならず、時期、数量、積揚の条件、仲裁規定、ストライキや海賊遭遇時の条項等々の締結、契約書作成をいたします。また、船舶の運航中、運行後、契約スタート前にさえ発生する数多くのトラブル処理も大切な業務です。利害対立する顧客間の調停です。

3月の大震災後、日本寄港拒否の船、船長、クルーの対応説得では、大変な毎日となりました。比較的大きな金額が電話一本で決まる、お客様から信頼、信認されることが大事な世界です。弊社取り扱いにおいて、年間200隻も仲介する日本向け穀物は、輸入量1000万トン以上になり、日本総輸入量3000万トン弱のおよそ半分に達します。

(運賃水準はH/P www.yamamizu.co.jpで紹介) 皆様の食卓に並ぶ食物や飲料の原料が、山水海運の仲介で海外から運ばれているわけです。

外航海運は80億トンという膨大な荷物を運ぶ割には、船の数は3万~4万隻という狭い世界で、誰でもが参入可能自由でグローバルな市場です。日本人同士の契約書も英語、支払いもドルです。弊社の取引先の多くは海外、社員も昔から多くの外国人が勤務しており、24時間不定期船のマーケットで活躍しております。今後も一層の国内外ネットワークの充実を図るべく目標を掲げて努力しております。

今年度より日本・パプアニューギニア協会に加入いたしました山水海運です。前回法人会員で紹介された山九(株)は「さんきゅう」ですが、弊社は「やまみず」と読みます。

山下汽船の子会社として、終戦直後に誕生した山水商店から海運ブローカー部門が独立して、現在にいたります。グループでは九州佐伯の造船所本田重工を経営しており、この造船所で進水した船が、当協会法人会員の協和海運の運航で、パプアニューギニアおよび周辺の南太平洋の島々を寄港しており、その縁で勧誘いただきました。ちなみに、国立の桐朋学園は、山下汽

事務局からのお知らせ

「地上最後の秘境」

パプアニューギニア写真展

日時：11月2日(水)~15日(火)
9:00~22:00

場所：大口ふれあいセンター
(鹿児島県伊佐市)

TEL：0995-22-1613

主催：NPO 法人 鹿児島・パプアニューギニア協会

一ギニア協会
後援：鹿児島県 伊佐市

オセアニア民族造形美術品展

* 早稲田大学 津一記念博物館

オセアニア民族美術展(仮称)

11月21日~2012年1月12日

* 早稲田大学125記念室

オセアニア民族美術展(仮称)

12月12日~2月29日、3月10日~4月21日

* 鶴ヶ島展 鶴ヶ島市中央図書館

12月12日~22日(月曜休館)

問い合わせ：高柳 090-9106-0957

編集後記

「困っている人を助けるのは当たり前」そう、当たり前のはずなのに、私たちは忘れかけている。

血も繋がっていない我々を兄弟と呼び、僅かな手持ち現金の中から募金をしてくれた……。

優しい気持ちをありがとう。

(佐藤直子)

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
会員数 2011年6月末 * 法人会員/20 * 個人会員/118

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1000円

会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

口座記号 / 番号 00140-2-277582

加入者名 / 日本・パプアニューギニア協会

問い合わせ先 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段下1-6-17 千代田会館6階(ニューギニア航空日本支社内)
電話：03-5216-3555 FAX：03-5216-3556 E-mail：info@air-niugini.co.jp